| 科目ナンバリング | U-LAS52 10005 PJ22 |
|---|---|

| 授業科目名<英訳> | 博物館実習（文化史）<br>Practical Training at Museum (Cultural History) | 担当者所属職名・氏名 | 文学研究科　教授　吉井　秀夫<br>文学研究科　教授　下垣　仁志<br>文学研究科　教授　米家　泰作<br>文学研究科　准教授　筒井　忠仁<br>文学研究科　准教授　田中　健一<br>文学研究科　教授　上島　享<br>文学研究科　助教　松井　直人 |
|---|---|---|---|

| 群 | キャリア形成科目群 | 分野(分類) | 学芸員課程 | 使用言語 | 日本語 |
|---|---|---|---|---|---|

| 旧群 | | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 2コマ | 授業形態 | 実習（対面授業科目） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 開講年度・開講期 | 2026・前期 | 曜時限 | 木3・4 | 配当学年 | 3回生以上 | 対象学生 | 文系向 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

**[授業の概要・目的]**

人文系の博物館で扱う様々な資料の基本的な性格と取り扱い方についての実習、および博物館の展示および施設の見学を通して、博物館における様々な業務に関する基本的な知識を身につける。

本実習は学芸員資格を取得するための必修科目である。学芸員課程における本実習の位置づけについては、初回講義時に説明する。

**[到達目標]**

・博物館において学芸員と勤務するためにどのような技術を身につけなければならないのかを知る。

・博物館の展示・バックヤードを見学し、博物館がどのように運営されているかを学ぶ。

**[授業計画と内容]**

本実習は、人文系の博物館で扱う様々な資料を実際に手に取りながら、その取り扱い方を学ぶ実務実習と、博物館に対する見学実習からなる。実務実習では、日本史・考古学・美術史・地理学の教員が、それぞれの分野に関連する資料の特質と取り扱い方についての実習をおこなう。見学実習は、京都市内を中心とする様々な分野の博物館の展示や収蔵施設等を見学し、博物館の現状と問題点についての理解を深める。

具体的な授業計画は以下の通り。
第１回　事前指導（ガイダンス）（吉井）
第２回　博物館実務総論（１）（文献資料を中心として）（上島）
第３回　博物館実務総論（２）（考古資料を中心として）（吉井）
第４回～第７回　実務実習（下垣・上島・米家・筒井・田中・松井）
第８回～第12回　見学実習（下垣・上島・米家・筒井・田中・松井）
第13回　見学成果発表会（吉井）
第14回　事後指導（吉井）
第15回 フィードバック

・第４回～第７回の実務実習は、複数の班を編成して行う。班分けは第１回のガイダンス時に行う。

・第８回～第12回は、京都市内・府内の複数の博物館での見学実習である。見学先および移動時間
・移動手段などについては、第１回のガイダンス時に連絡する。
・諸事情により、実務実習と見学実習の日程が変更される可能性がある。最終的な授業日程は、第１回以降の講義内で発表する。

博物館実習（文化史）(2)へ続く↓↓↓

**博物館実習（文化史）(2)**

**[履修要件]**

・本科目は、文学部開講の「博物館学Ⅰ」「博物館学Ⅱ」「博物館学Ⅲ」のうちいずれか２科目の単位を修得済みの者に限り履修を許可する。ただし、学芸員資格取得カリキュラムの趣旨に鑑みれば、本実習履修前に３科目すべての単位を修得していることが望ましい。
・科目の性質上、受講者数は２５名程度に制限する。それを超える場合には、第１回目の授業の際、履修者選抜を行う。
・第１回目の授業には、成績表とあらかじめ作成した小論文とを持参の上、必ず出席すること。全体の履修計画について説明や履修者選抜（上記３科目のすべての単位を修得している者を優先する。）を行う。小論文は（a）「博物館実習（文化史）」を受講しようと考えた理由、（b）自身の研究と学芸員資格のかかわり　の２点をＡ４用紙１枚程度で述べる。第１回目の授業に不参加の者は受講を認めない。
・本授業の単位は増加単位となり、卒業に必要な単位にはならない。

**[成績評価の方法・観点]**

・平常点評価（出席状況・講義内での発表・小レポートなど）と実習成果に関するレポート試験による予定である。具体的な評価方法や配点の割合は、初回の講義において説明する。
・なお、本授業は、原則として、すべての回に出席した者に対してのみ、成績評価を行う。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

・実務実習では、毎回の実習内容を振り返り、今後、どのような技量を身につける必要があるかを確認する。
・見学実習においては、見学成果を整理し、レポートにまとめる。

**[その他（オフィスアワー等）]**

・授業のコーディネートは吉井が担当する。質問等がある場合は、吉井まで問い合わせること。問い合わせ方法に関しては、授業中に指示する。
・万一の事故に備え、学研災（学生教育研究災害傷害保険）及び学研賠（学研災付帯賠償責任保険）または同様の保険（生協の共済等）に必ず加入すること。
・見学実習の際の交通費・入館料等は自己負担とする。

**[実務経験のある教員による授業]**

①分類
資格取得に関する授業科目のうち、当該資格の実務に関する授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容

③実務経験を活かした実践的な授業の内容

**[主要授業科目（学部・学科名）]**